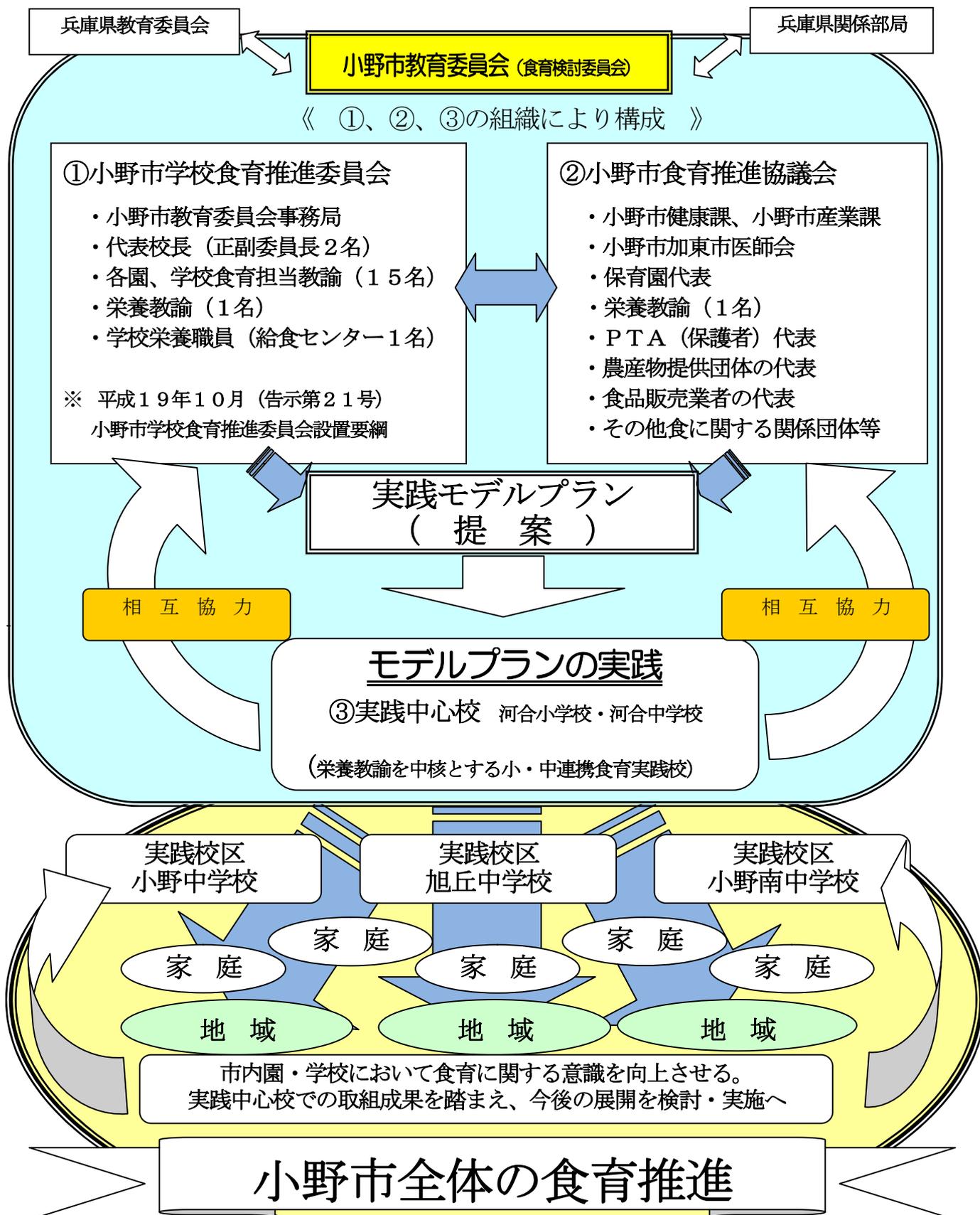


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	兵庫県
推進地域名	小野市

## 1. 事業推進の体制





○食育講演会の開催

講師：兵庫農漁村社会研究所代表 保田 茂氏

(兵庫県教育委員会食育推進委員会委員長、神戸大学名誉教授)

参加者：河合小学校児童保護者・教職員、小野市学校食育推進委員会、  
小野市学校食育推進協議会員、小野市学校保健会役員、PTA役員

【保田 茂氏による食育講演会】



テーマ2 各園・学校における食育推進に関する取り組み・指導

- 1 小野市学校食育推進委員会を中心に、市内全園学校の取り組みを食育全体計画・年間計画等の冊子にまとめる
- 全園学校に配布し、他校の取り組みを共有し、市内全体での食育推進を図った
- 小野市学校食育推進委員長（食育推進校長）と小野市が委託契約を締結し、  
小野市全園学校へ食育推進費を交付
- 小野市学校食育推進委員会を開催し、実践中心校の取り組みについて情報共有を  
図るとともに、各園学校での取り組みを報告
- 食育ポスターを市内全園学校へ配布し、各クラスに掲示
- 校内放送で給食の献立を紹介

【小野市学校食育推進全体計画】



【各学校の特色ある食育推進事業】

- 夏休みを利用した給食調理員との調理実習
- 他学年との食事交流
- 実践中心校（河合中学校）で収穫祭の開催（地域との連携）  
学校で収穫した野菜・地元産小麦「ふくほのか」を使用した体験授業（カレーうどん作り）  
1年生 サラダ、2年生 手打ちうどん、3年生 カレーをそれぞれ調理し、  
学校全体で協力した取り組みを行う
- 実践中心校（河合小学校）で収穫祭を開催（地元産小麦「ふくほのか」を使用）  
1・2年生 ラーメン作り体験（保護者、地域との連携）  
3・5年生 もちつき体験  
4・6年生 うどん作り体験を実施 地元産小麦「ふくほのか」を使用
- 古代米を栽培から収穫まで行う
- ごはん塾（ご飯の炊き方、米飯中心のレシピの紹介等）の開催

【給食センター調理員との実習】



テーマ3 小野市食育推進協議会による外部団体との連携

- 1 小野市学校食育推進委員会・小野市食育推進協議会・民間企業等外部団体との連携した食育推進（体験学習）
- 小野市食育推進協議会（平成24年4月発足）を開催し、  
市内の食育推進・取り組みについて情報共有を図る  
協議会員：民間企業、医師会、歯科医師会、連合PTA、  
保育所・園代表、市役所内各課
- 食に関する懇話会の開催  
日時：平成25年2月7日（木）  
内容：保田 茂氏と小野市学校食育推進委員会、  
小野市食育推進協議会による懇話会  
(学校給食を囲んで、食についてのアドバイス等をいただく)
- ※ 当日の給食は、河合小学校で収穫した「もち米」を使用した  
「五目ご飯」が市内全児童生徒に提供された（地元新聞記事に掲載）
- 市内の企業と連携した食育推進事業を実施  
地元企業による出前授業・工場見学・手作り体験を実施

【河合小学校で収穫したもち米を使用した学校給食】



## テーマ1～3に共通する具体的計画

1 小野市学校食育推進委員会並びに小野市食育推進協議会を中心とする様々な関係団体・保護者との連携による食育推進

○推進計画並びに各学校園の食育推進報告を全体会議の中で共通理解する（他校との情報交換等）

2 食育推進のための効果的な保護者への発信

【川島隆太教授による講演会】

○小野市食育推進委員会が作成した保護者向けチラシの発信

○各学校食育だよりによる発信

○小野市学校給食センターの給食献立表による発信



3 脳科学に基づく「バランスのよい朝食」摂取の推進

○小野市教育行政顧問 川島隆太教授の講演会内容を発信

（小野市では、毎年、川島隆太教授を招聘し、講演会を開催している）

○年に2回、小野市の全保育所園、幼・小・中・特別支援学校 5,300人が一週間連続した朝食摂取率調査並びにバランスのよい朝食摂取率調査を行っている（ひまわりカード）

## 本事業における評価指標と考察

小野市では、平成19年度に小野市学校食育推進委員会を立ち上げ、食育を推進している。

当初、委員会では、子どもたちの「早寝・早起き・朝ごはん」の推奨と、子どもたちの生活習慣の確立を目指し取り組んできた。平成23年度には、これらの取り組みの成果により、市内の子どもたちの朝食摂取率は、幼稚園では94.2%、小学校では95.7%、中学校では92.2%まで向上してきた。しかしながら、子どもたちの朝食の内容を各学校で把握したところ、特に中学生になってからは、部活動の朝練習等の参加で余裕を持った朝食摂取の時間がとれず、トーストとコーヒー・おにぎり等炭水化物中心の朝食が多くなっていることが判明した。このような状況を踏まえ、①中学生の朝食摂取率の向上、②子どもたちの朝食の質（バランスのよい朝食摂取率）の向上に取り組むこととした。

①市内中学生の朝食摂取率 92.0% ⇒ 95%を目指す

②市内中学生のバランスのよい朝食摂取率 42.7% ⇒ 60%を目指す

## 本事業の成果

小野市では、毎年小野市教育行政顧問である川島隆太教授を招聘し講演会を開催しており、川島教授の研究内容で、炭水化物だけをただ単に摂取しても、子どもたちの学習能力の向上が見られないことを踏まえ、平成23年度より「バランスのよい朝食摂取率」の向上を目指し、市内一斉に取り組んでいる。

今回の委託事業の中で、実践中心校が連携することにより、各校の教職員の食に対する意識の向上とともに、栄養教諭・保護者・地域・関係団体と様々な連携により、効果的な食育の推進が図れた。

また、本事業における評価指標である①朝食摂取率、②バランスのよい朝食摂取率は、以下のとおりとなった。

①朝食摂取率	第1回調査	幼稚園	94.2%
		小学校	95.7% (河合小学校 94.3%)
		中学校	92.2% (河合中学校 99.4%)
②バランスのよい朝食摂取率	第1回調査	幼稚園	60.9%
		小学校	65.1% (河合小学校 69.4%)
		中学校	42.7% (河合中学校 74.4%)

本事業における結果では、実践中心校における朝食摂取率は、ほぼ100%に達しており、市内中学校において低下がみられた「バランスのよい朝食」摂取率においても市内平均42.7%と比して河合中では1.7倍である約75%に達し、事業の効果が表れている。

## 今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

- 今回の実践中心校（河合小学校、河合中学校）は、小規模校であり、小中連携による食育推進が効果的に行われた。今後は、この実践内容を小野市学校食育推進委員会で検証し、その他校区の小中連携事業の発展につなげていくことが課題である。
- 本市では、給食センター方式による学校給食であるため、市内には栄養教諭は2名の配置である。実践中心校を中心に食育推進を図れば、効果的な推進が可能であるが、栄養教諭が市内全学校へ出向いて出前授業等指導を行うことは時間的な問題等により制約があるため難しい。また、他校の食育実践の報告から、栄養教諭に頼りがちな学校も見受けられることから、今後は、各学校において食育担当教諭等が中心となり、組織を確立し、継続的に食育推進を図ることが重要である。
- 小学校では特色ある食育体験学習等がなされている一方、中学校では取り組みの停滞がみられる。今後は、中学校において各教科の中で食育の推進を図る必要がある。